

2025 年度業務実績報告書

提出日 2026 年 1 月 1 日

1. 職名・氏名 教授・小路 淳

2. 学位 学位 博士、専門分野 農学、授与機関 京都大学、授与年 2000

3. 教育活動

(1)講義・演習・実験・実習
①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 魚類学（2 単位）2 年次生 生態遺伝学（2 単位）3 年次生 科学英語 II（2 単位）3 年次生 生物学実験（1 単位）2 年次生 水圏保全遺伝学実習（1 単位）3 年次生 水圏環境学実験（1 単位）2 年次生 インターンシップ（1 単位）3 年次生 海洋生物資源学フィールド演習 I（2 単位）1 年次生 海と暮らし（2 単位）1 年次生 水圏生態学（2 単位）大学院生 1・2 年次生
②内容・ねらい 複雑で多様な水圏環境に生息する生物の形態，生活史，生態の特徴および自然との関わりについて，包括的に理解するための座学と，フィールドワークを身につけるためのメニューを考案した．専門性を活かして，科学，産業をはじめとする多様な分野において将来実践できる技能を身につけることを目的とした．
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 【魚類学】 地球誕生から現在に至るまでの 40 億年以上にわたる長い進化の過程で，魚類がどのように環境に適応し，多様な分類群を形成し進化してきたのかを包括的に理解できる講義内容を構成した． 【生態遺伝学】 魚類に限定することなく，生物一般について，種の生態，生活史と遺伝的背景を関連づけて理解できる講義内容を構成した． 【科学英語 II】 英語に対する苦手意識を和らげるように，専門分野の論文に加えて，動画，音楽，海外の風景などを適宜紹介して講義で活用した． 【生物学実験】 水産資源生物として重要な魚類についての理解と親しみを深めるために，大学キャンパス周辺の海で多獲される魚種（アジ類）を実験材料として用い，分類，測定，解剖などの技術，知識を習得した． 【水圏保全遺伝学実習】 陸と海のつながりへの意識を強められるよう，海から川へ遡上するハゼ類を現地（若狭町）の水田と周辺の河川で捕獲し，観察，データ収集する機会を設けた． 【水圏環境学実験】 水圏生物と環境を採集，調査するためのフィールドワークと，室内での測定作業，データ解析の手法を身につけるために，物理環境，プランクトン，魚類などの多様な調査・測定・分析手法をメニューに組み込んだ． 【インターンシップ】

多様な職種・業種で構成されるインターンシップ先を受講者が選択できるよう情報収集し、登録、報告書作成のサポートを行った。

【海洋生物資源学フィールド演習Ⅰ】

講義や施設見学を通じて海洋生物資源学科における学習内容を俯瞰し、その学術的・社会的意義を考えるとともに、グループで協力して課題研究に取り組むことで、大学での学習に必要な知識・技能、思考力、コミュニケーション力を身につける内容構成とした。

【海と暮らし】

リレー講義 1 回を担当し、海洋生物資源学に関する多様な知識と幅広い見識を修得し、海洋環境や生物資源が人々の生活や社会に与える影響について考察する力を養う内容を盛り込んだ。

【水圏生態学】

大学院生向けの講義として専門性を深められるよう、水圏フィールドで応用されている調査・分析手法、魚類の多様性形成メカニズムの解析手法に関する最新の研究成果や世界の動向を講義内容に盛り込んだ。

【ゲストスピーカー 5 人】

【フィールドワーク等 4 件】

(2)その他の教育活動

内容

1. 2025 年 9 月 9 日に、小浜・かつみキャンパスを育てる会の出張キャンパスの一環として、福井県大飯郡高浜町立内浦小中学校の総合学習「魚や海の生き物のはなし」のなかで「魚が つなぐ 森・川・海」というタイトルで講演を行った。
2. 2025 年 9 月 12 日に、令和 7 年度学問発見講座（解放講義）の一環として、福井県立若狭高校において本学海洋生物資源学部および海洋生物資源学科の紹介と、「魚類の特徴と多様性」というタイトルでの講演を行った。

4. 研究業績

(1)研究業績の公表	
①著書	【 本】
②学術論文（査読あり）	
*1. 田畑玲雄, 辻 秀斗, 法理樹里, 小路 淳 リアス海岸の生態系サービスに関連する福利の構造の地域比較：西南日本太平洋岸における津波への懸念の影響. 日本水産学会誌 91, 502-510 (2025 年 8 月)	
*2. 高柳百花, 倉賀野真央, 杉本 亮, 浜口昌巳, 小路 淳. 小浜湾・高浜湾の砂浜海岸浮遊生態系における低次生産と仔稚魚組成の季節変化. 水産海洋研究 89, 151-162 (2025 年 5 月)	
【2 本】	
③その他論文（査読なし）	
*1. 伊関奏汰・川元穂高・浜口昌巳・小路 淳 福井県小浜湾のアマモ場における魚類の出現：夏期の採集と環境 DNA 分析の結果から 福井県立大学論集 62 (2025 年 12 月, 印刷中)	
【1 本】	
④学会発表等	
*1. <u>Jun Shoji</u> Fish nursery or blue carbon? Possible effects of seagrass vegetation on fish abundance and survival through nocturnal hypoxia. 米国水産学会魚類初期生態部門, コンコルドホテル, ケベック, カナダ, 2025 年 6 月 17 日	
*2. <u>Jun Shoji</u> Blue carbon and fishery production in eelgrass beds: a case study on variability of fish production at different eelgrass shoot densities. 英国生態学会, エディンバラ国際会議場, 英国, 2025 年 12 月 16 日	
3. Kanata Isekii, Naoto Ietsugu, <u>Jun Shoji</u> Estimation and interannual variation of blue carbon in eelgrass beds in Wakasa Bay, Japan 太平洋国際漁業委員会, マリネリア横浜産貿ホール, 神奈川, 2025 年 11 月 12 日	
*4. <u>Jun Shoji</u> Possible effect of nocturnal hypoxia on the trade-off between blue carbon and fish production in eelgrass bed 太平洋国際漁業委員会, マリネリア横浜産貿ホール, 神奈川, 2025 年 11 月 12 日	
5. 山本啓斗・岩崎貞治・上村泰洋・小路 淳・富山 毅 衰退したガラモ場におけるシロメバル稚魚の成長と生残. 令和 7 年度日本水産学会秋季大会, 広島大学東広島キャンパス, 広島, 2025 年 9 月 26 日	
*6. 川元穂高・伊関奏汰・小路 淳 小浜湾のアマモ場における魚類生産速度の季節変化	

令和 7 年度日本水産学会春季大会．北里大学，相模原市，神奈川，2025 年 3 月 27 日	
*7. 田畑玲雄・辻 秀斗・法理樹里・小路 淳 リアス海岸がもたらす福利・懸念の総合評価：西南日本 2 地域（愛媛県南部，宮崎県北部） における主観的側面の比較 令和 7 年度日本水産学会春季大会．北里大学，相模原市，神奈川，2025 年 3 月 27 日	【7 件】
⑤その他の公表実績	【 本】
(2)科研費等の競争的資金獲得実績	
科学研究費補助金（基盤研究 B）（代表）2025 年度 4,500 千円（2025-2028 年度計 19,800 千円） 「アマモ場のブルーカーボンと魚類生産の包括評価：環境・水産が両立する沿岸政策の構築」 R7 年度（2 年目）地域連携研究推進支援（代表），1,200 千円 「若狭湾における藻場の環境と生物の総合調査：ブルーカーボンを含む生態系サービスの包括 評価へ」	
(3)特許等取得	
(4)学会活動等	
水産学会シンポジウム「リアス海岸の自然・水産・文化：持続可能な未来に向けた，社会－生 態統合アプローチ」を企画責任者として提案し，採択（2026 年 3 月，品川にて開催予定） 学術誌の査読： 2 月：水産海洋研究 3 月：Population Ecology 5 月：Fisheries Oceanography 9 月：Ichthyological Research	

5. 地域・社会貢献活動

1. ふくいの水産研究シンポジウムにおける講演
小路 淳
小浜湾のアマモ場における魚類調査：「水産」と「ブルーカーボン」の両立をめざして
福井県立大学小浜キャンパス交流センター，2025年2月17日
2. 出張キャンパス 総合学習「魚や海の生き物のはなし」魚がつなぐ森・川・海
高浜町立内浦小中学校，福井県大飯郡高浜町，2025年9月9日
3. 学問発見講座 解放講義「魚類の特徴と多様性」
福井県立若狭高校，福井県小浜市，2025年9月12日
4. 公開講座 海と暮らし「藻場と魚類の生態学」
web 開催，2025年10月24日
5. 地元の小浜市漁業協同組合からの要望を受けた，R7年度（2年目）地域連携研究推進支援
「若狭湾における藻場の環境と生物の総合調査：ブルーカーボンを含む生態系サービスの
包括評価へ」に採択され代表者としてプロジェクトを推進した。

6. 大学運営への参画

(1)補職

(2)委員会・チーム活動

キャリアセンター担当（主担当：1月～3月）
論集編集委員（主担当：1～3月）
インターンシップ（主担当：1～3月）

インターンシップ（副担当 4～12月）
2025年度入学（1年次生）副担任（4月～12月）
JABEE 委員（4月～12月）
教職部会担当（4月～12月）
将来構想 WG（4月～12月）
毒劇物管理委員会（4月～12月）

(3)学内行事への参加

(4)その他、自発的活動など